



夏休みも終盤の8月24日、快晴のもと茨木クリエイティブセンターにて笑顔いっぱいのフェスタが開催されました。オープニングは、音楽サークル・カモミールさんの演奏による「さんぽ」でスタート。となりのトトロの軽快な楽曲に会場から手拍子がおこりました。本格的な落語やおやつ作りの他、メイン会場には手作り体験&組合員活動紹介ブースが並び、開会と同時に多くの親子連れでにぎわいました。
(参加計212名)

手作り体験コーナー

牛乳パックで風車づくり



「白くまくん」を地球温暖化による絶滅から救おうと、白くまの顔を形どった「おんだんかぼつし」の帽子をかぶった自然エネルギー市民の会の6人が登場。運営委員の長谷利男さんより、「今日は牛乳パックで風車を作ります。そしてその風車で風をおこし、これだけの発電になるのか実験してみよう」と挨拶。工作が始まると、大人も子どもも真剣そのもの。

発電の実験では「実際にやわらかいパワールが出るのか」を知るために車輪をまわしてもらいました。「今の数値は1000。これだとあと9800本の風車がないとテレビが観れないね」というお話を子ども達は「へー」とおどろきの声をあげていました。

親子で夏のおやつ作り

「豆腐白玉パンチを作るのよ」と、エプロンに三角巾姿の親子が生活実習室に集まりました。「耳たぶくらしいなったり、丸めてくださいね」の指導のもと親子クッキングは進みました。バナナやキウイを慣れない手つきで切る子どもを、静かに見守っているお母さんたちの姿が印象的。試食会では「おうちね」の音が飛び交っていました。

参加者の声

お母さんのお手伝いを家ではたまにしています。包丁を持ったのは今日が何回目かな。自分で作ったものだからとてもおもしろかったです。(9歳女の子)

点字体験コーナー

点字はのこの点かきで書いていって、や、全部左かきで書いていっての説明を受けました。その後、点

大人も子どもも遊んで学べるイベント

ヨーパdeスマイルフェスタ開催



親子でおやつ作り



よどがわの活動紹介



絵本読み聞かせ



生協商品紹介



戦争ほっきづくり

「地球から戦争がなくなりますように」という願いから生まれた戦争ほっき(放棄)。日本国憲法が改定されようとする今、平和憲法を見つめ平和のバトンを手渡ししてほしいというメッセージを込めて行なわれました。小さくかわいらしいほっき作りは、整理券を發行するほどの人気を呼びました。

参加者の声

戦争、ほっき、かわいいですね。チラシを見た時はピンと来ませんでした。二目みてすぐにその意味がわかりました。今日のいよいよ土産になりました。

牛乳パックでカード入れづくり

カラフルな千代紙が目を引くコーナー。種類の違った千代紙と名刺大のサイズ等に切られた牛乳パック1セットを用意し、文化グループのメンバーが作り方を説明。あつという間に、立派な「カード入れ」が完成しました。実用性も高く、参加者も大満足の様子でした。

参加者の声

牛乳パックってホント、しっかりしてますね。のりを使って簡単にカード入れができました。

平和のありがたさを実感!

- 「ユニセフ・子ども達のためのユニセフ活動体験」
- 「九条の会・よどがわ」 ●「ピース川柳」

地雷のレプリカ(複製品)を手にするのは初めてで衝撃的でした。「蝶々型地雷」は、蝶々が飛んでいるかのように降りてきて、何も知らない子ども達を傷つけているとの説明を受けました。恐ろしいことだと思います。隣のブース「九条の会・よどがわ」では署名活動を展開。平和を願うたくさんの方が、賛同の意を表明されました。「ピース川柳」も多数の応募があり、作品展示に足を止められる方が多くいらっしゃいました。

参加者の声

● 生産者の方の生の声を聞け、とてもよかったです。今、日本は全国的に第一次産業をされている方が厳しい状態になっています。このまま自給率が下がっていくとも良いのか?酪農家の方々も少しも良くなるにはどうすれば良いか?と考えさせられた。子どもも牛を見て喜んで、とても楽しそうでした。また、色々な生産者さんとお会いしてお話を聞いてみたいなあと思いました。

● 今回訪問させていただいて苦しい状況を感じました。生協の牛乳はスーパーより高いなあと思いましたが、ぜひ一度注文して牛さんを思い浮かべながら飲んでみたいと思います。牛さんの顔大きかったです!



子どもたちからのタオル贈呈式

今回はタオルを贈る取り組みは、理事・行政区委員・みくるクラブメンバー・職員に呼びかけて行われた取り組みです。次年度に向け、全組合員参加の取り組みにするかは、今後検討していきます。

「最初は「くさい!」と言っていました。一方、子どもたちを見ると、そんなこともなかったかのようになり、えさやりを始めました。かわいわえさをやる子どもや、牛からずっと離れない子どもなども、みんな貴重な体験となりました。

まず訪れた鏡野クラーションでは、施設や検査方法の説明を受けた後、施設を見学しました。

昼食後いよいよ牛舎の見学へ。さつそく生産者にタオルを贈呈しました。生産者の皆さんはとても喜ばれ、中でもメッセージカードには感激されていました。この後、生産者の厳しい酪農の現状の話をつかがい牛舎を見学しました。あちこちで熱心に質問する参加者の姿がありました。一方、子どもたちは最初「くさい!」と言っていました。一方、子どもたちを見ると、そんなこともなかったかのようになり、えさやりを始めました。かわいわえさをやる子どもや、牛からずっと離れない子どもなども、みんな貴重な体験となりました。

「組合員の皆さんから寄せられたメッセージをお届けしました。」

24

名の参加で行って来ました。今回の目的は、生産者の皆さんとの交流と、組合員・職員から集められた210枚のタオルとメッセージカードを生産者の皆さんに手渡すことです。

このタオルは、前回の産地訪問時に、安全でおいしい牛乳を届けるため搾乳前に牛の乳房をタオルで清潔にしていること、そのタオルが年間ではかなりの量を消費する事をお聞きし、生協として何かお役立ちできないかという組合員の声から集めたものです。



ここで作られる牛乳の紹介

NEWS FILE

ニユースファイル

【おかやま酪農協バスツアー】

8月26日 生協牛乳の産地・おかやま酪農協バスツアー